

## 第2章

# 碧南市の生涯学習の現状と課題

### 1 碧南市の生涯学習施設の状況

生涯学習の拠点として、本市では1小学校区1公民館の方針により市内に7つの公民館を、また文化会館、市民プラザなどを整備してきました。

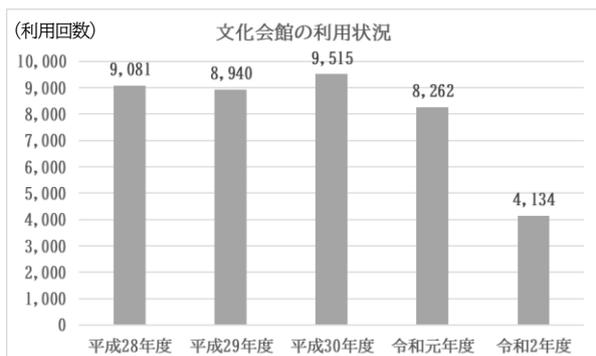
公民館は、地区住民の生涯学習活動の拠点となっているだけでなく、地域住民の交流活動の拠点としての役割も担っています。

市民プラザは、会議室・研修室の他に体育施設や児童センター等を併設した多目的施設となっており、幼児から高齢者にいたるまで幅広く利用されています。

<生涯学習活動拠点施設>

施設名	所在地	延床面積(m <sup>2</sup> )	開館年月日	経過年数
文化会館	源氏神明町 4	4,222	昭和 54 年 4 月 5 日	43
芸術文化ホール	鶴見町 1-70-1	4,725	平成 5 年 7 月 17 日	28
新川公民館	新川町 2-1-1	576	昭和 56 年 4 月 1 日	41
中部公民館	向陽町 3-48	533	昭和 61 年 4 月 1 日	36
大浜公民館	中町 1-53	543	昭和 57 年 4 月 1 日	40
棚尾公民館	汐田町 2-28	1,990	平成 11 年 2 月 1 日	23
日進公民館	日進町 2-92	523	昭和 59 年 4 月 1 日	38
鷺塚公民館	旭町 2-66	520	昭和 58 年 4 月 1 日	39
西端公民館	半崎町 3-60	290	昭和 52 年 1 月 8 日	44
農業者コミュニティセンター	神田町 2-6	1,198	昭和 61 年 1 月 8 日	36
市民図書館	鶴見町 1-70-1	4,327	平成 5 年 7 月 17 日	28
市民図書館中部分館	源氏神明町 2	1,203	昭和 44 年 11 月 18 日	52
南部市民プラザ	塩浜町 7-135	3,049	平成 3 年 7 月 2 日	30

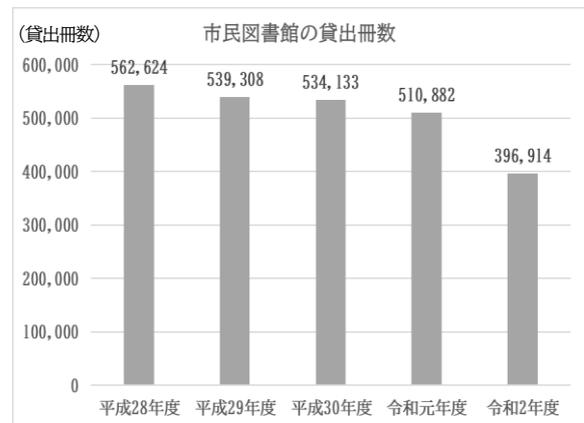
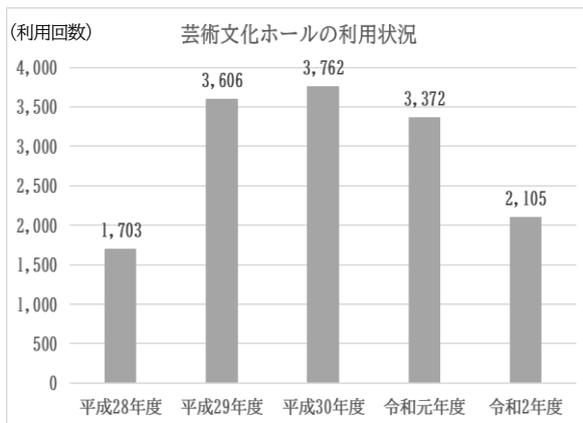
文化・芸術施設として、文化会館、芸術文化ホールには多人数を収容できるホールを有し、市民の学習成果の発表の場、芸術鑑賞の場となっているとともに、楽器などの練習に適した防音加工の部屋も備えています。



※令和2年度は新型コロナウイルス感染症の影響による大幅減

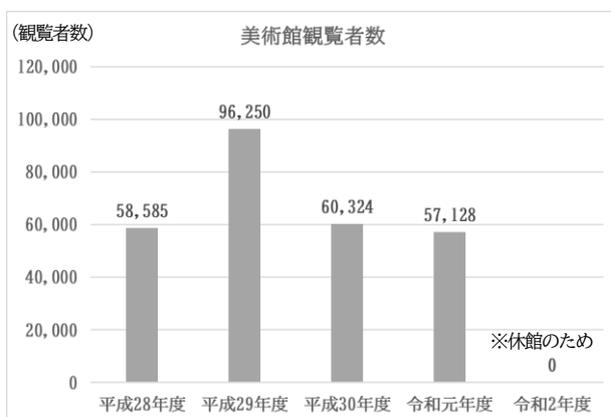
芸術文化ホールは、平成26年度より民間事業者の有するノウハウを活用し住民への良質なサービス提供及び管理運営の効率化を図るため、指定管理者制度を導入しました。

図書館施設は、本市には市民図書館（本館）を始め、南部分館（南部市民プラザ内）、中部分館の3つの図書館があり、公民館にはそれぞれ図書室を設置するなど、充実した図書資料により市民の知的活動を支援しています。また、令和3年度からは電子図書の貸出が開始されました。



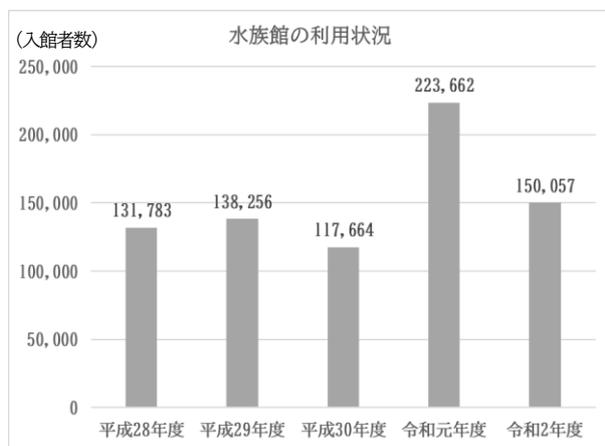
碧南市の地域性を活かした施設としては、哲学たいけん村無我苑、海浜水族館、あおいパーク、藤井達吉現代美術館があります。

藤井達吉現代美術館は、これまで多くの美術作品等の寄贈や寄託があり、現在、収蔵庫の増設及び長寿命化対策などの改修を行っており、令和5年春頃のリニューアルオープンに向けて準備を進めています。



藤井達吉現代美術館

海浜水族館は、希少淡水魚保護及び観察体験、三河の自然の魅力発信をする場などとして、ビオトープやニホンイシガメ繁殖施設などを新設しました。また、併せて大水槽等を刷新し、平成31年3月にリニューアルオープンをしました。



ビオトープ

また、文化財施設としては、文化財の調査・保護及び市史史料・民俗資料の整理・活用を推進するとともに、市民に対する保護意識の高揚に努めています。

各施設では、学術資源の収集・調査・展示のみならず、工作教室などの参加型事業を展開するとともに、小中学校などとの連携による教育普及活動にも力を入れています。

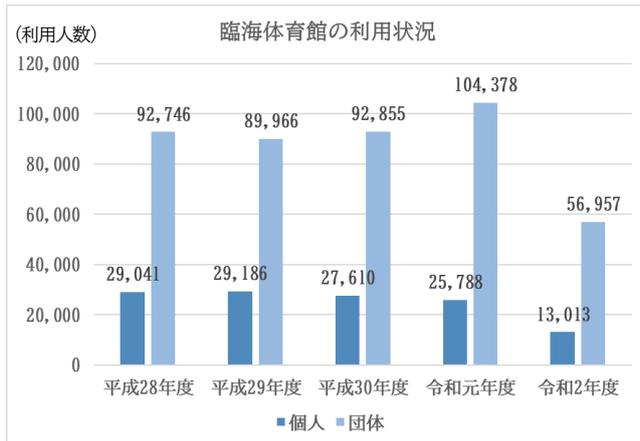
スポーツ施設としては、臨海体育館、各種グラウンド、テニスコートなどを整備し、市民の健康増進活動・スポーツ活動の拠点となっています。また、気軽にスポーツを楽しむことができる環境づくりを目的として、文部科学省が推進している地域密着型のスポーツクラブである総合型地域スポーツクラブの活動も支援しています。

平成30年7月には、新たなスポーツの掘り起こしによるスポーツ機会の創出及び市民のスポーツ実施率の向上を図るため碧南緑地ビーチコートが開設されました。

また、公園施設の一部として碧南スケートボードパークが令和2年3月に供用開始され、新たなスポーツに触れる機会が増えています。



碧南緑地ビーチコート



碧南スケートボードパーク

全体的に、市の生涯学習施設は供用開始から40年程経過する施設も多くなっており、施設や備品の老朽化が進んでいます。今後は改修や修繕を含め施設のあり方についても検討をしていく必要があります。

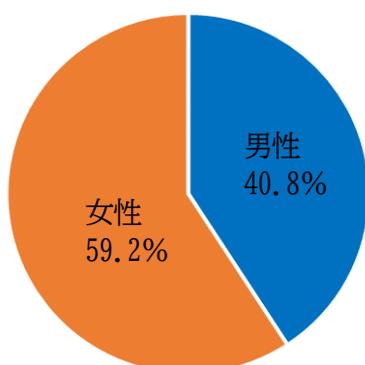
## 2 生涯学習に関する市民アンケート調査の結果

本計画を策定するにあたり、令和3年7月に市内在住の18歳以上の市民1,000人を対象として「生涯学習に関する市民アンケート」を実施しました。

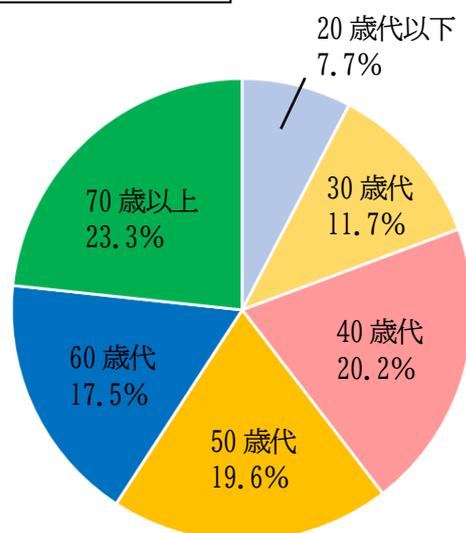
内容は、第2次生涯学習推進計画策定時に実施した市民アンケートを基本として実施しました。なお、有効回答数は326人、有効回答率は32.6%でした。

### (1) 回答者の年代別・性別構成比

男女の割合



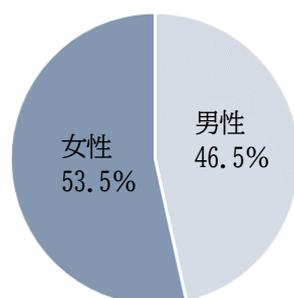
年代別の割合



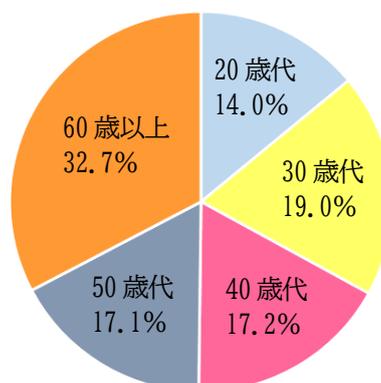
### <前回アンケート>

平成23年8月に市内在住の20歳以上の市民1,500人を対象に実施し、約58%にあたる866名が回答。

男女の割合



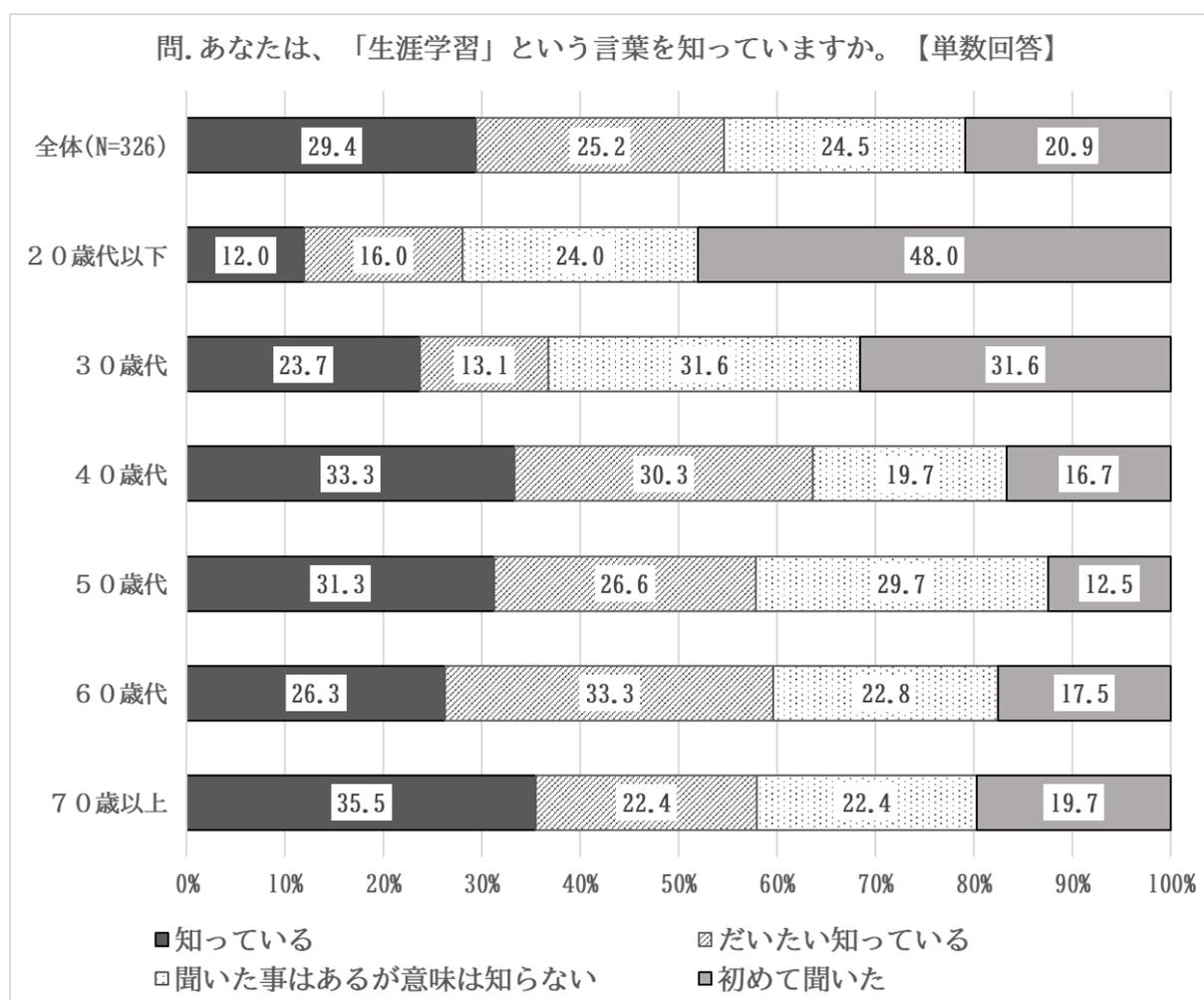
年代別の割合



## (2) 生涯学習という言葉の認知度

生涯学習という言葉を知ったことがある人は全体の79%で、前回調査（平成23年：80%）と比較してほぼ同じ割合となっています。また、30歳代以上の世代では、いずれの年齢層においても高い割合で認知されています。

しかし、20歳代以下の世代では「このアンケートで初めて聞いた」という人の割合が48%であり、前回調査の24%から2倍に増えています。

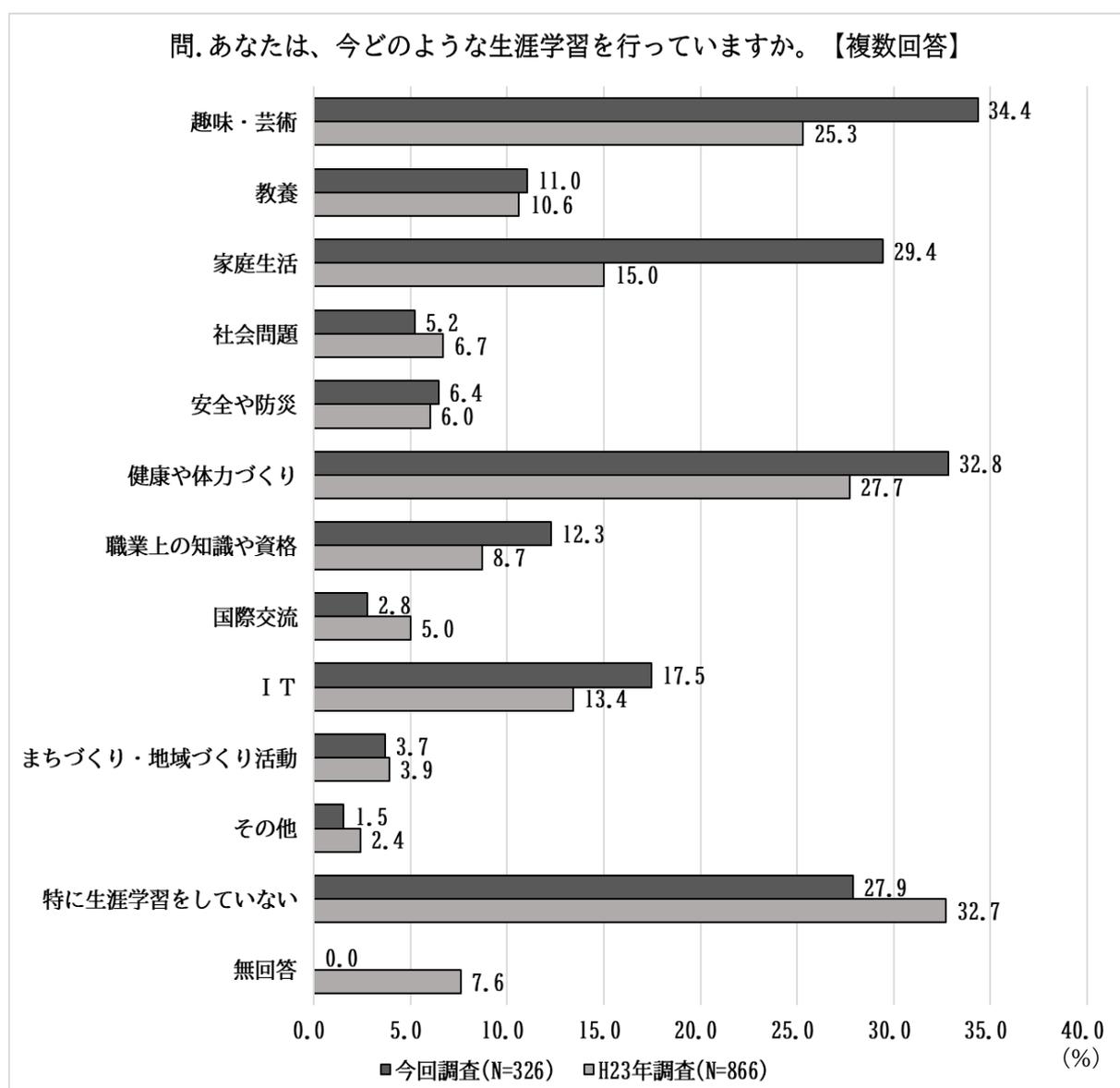


### (3) 日頃の生涯学習

#### ① 生涯学習の内容

生涯学習の内容としては「趣味・芸術（音楽、絵画、手芸、茶道、華道、書道、園芸など）」の34.4%が最も多く、次いで「健康や体力づくり（食育、スポーツ、レクリエーションなど）」が32.8%、「家庭生活（料理、裁縫、育児、消費生活など）」が29.4%となっています。

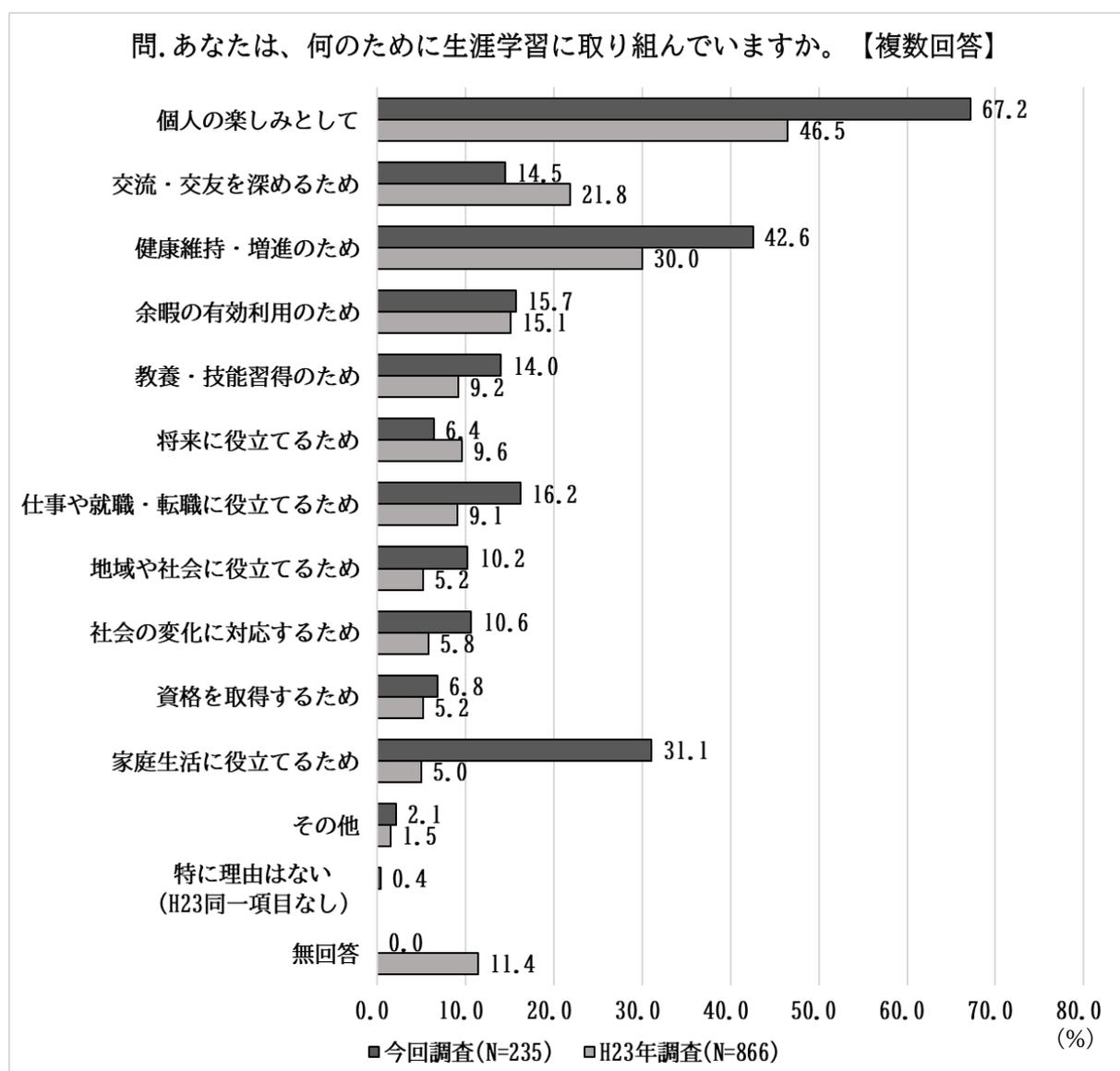
前回調査結果と比較すると、「趣味・芸術」は9.1ポイント、「家庭生活」は14.4ポイント上昇しており、人気が高くなっています。また、「特に生涯学習をしていない」の割合が、32.7%から4.8ポイント減少しており、何らかの生涯学習を行っている人の割合が多くなっています。



## ② 生涯学習の目的

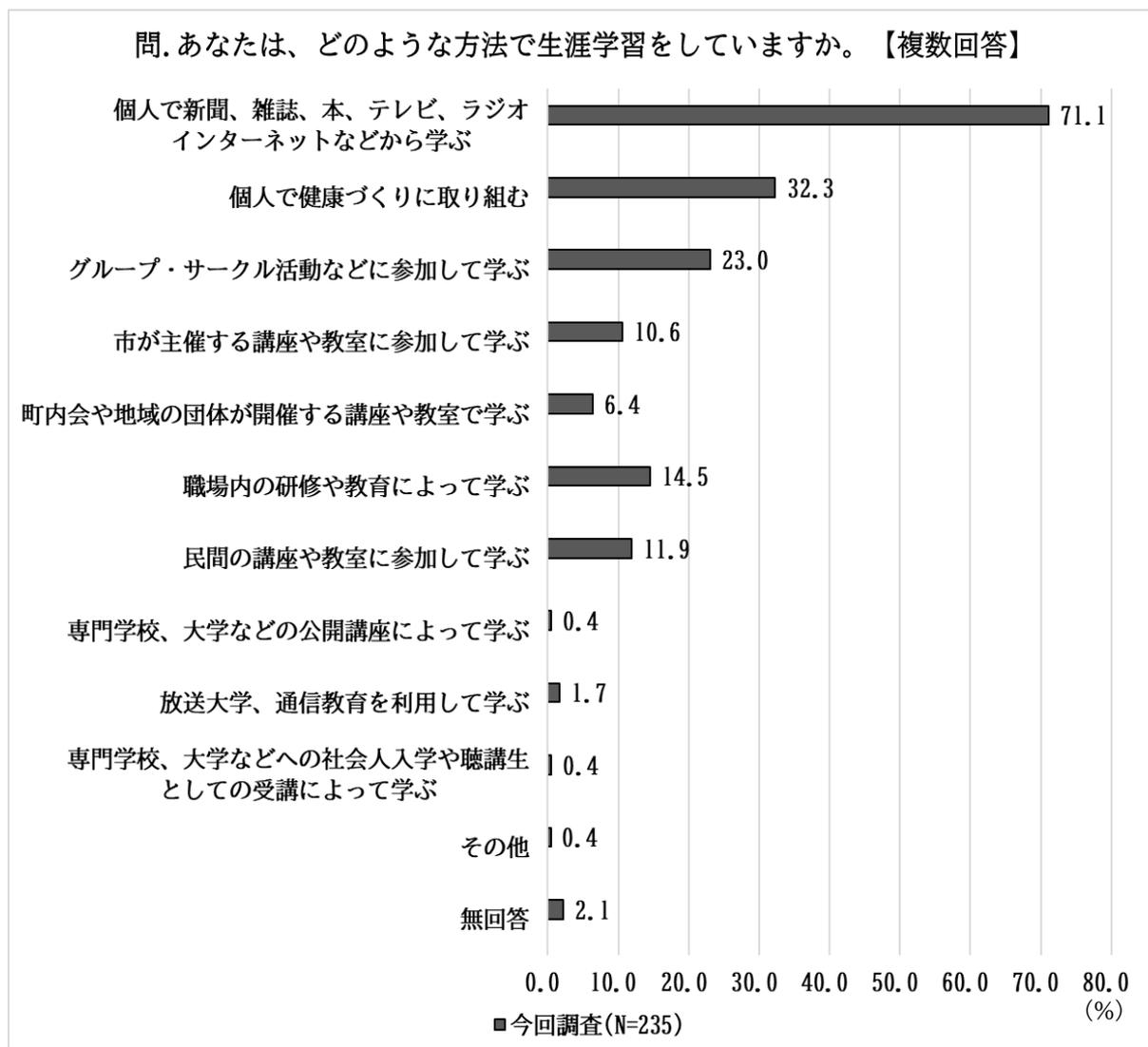
生涯学習を行う目的をみると、「個人の楽しみとして」の67.2%が最も多く、次いで「健康維持・増進のため」が42.6%、「家庭生活に役立てるため」が31.1%、「仕事や就職・転職に役立てるため」が16.2%となっています。

前回調査結果では、「個人のたのしみとして」と「健康維持・増進のため」が突出していましたが、今回調査結果では「家庭生活に役立てるため」と「仕事や就職・転職に役立てるため」のポイントが大きく上昇しており、日常生活や仕事のスキルアップを目指して生涯学習に取り組んでいる人が増えているといえます。



### ③ 生涯学習の方法

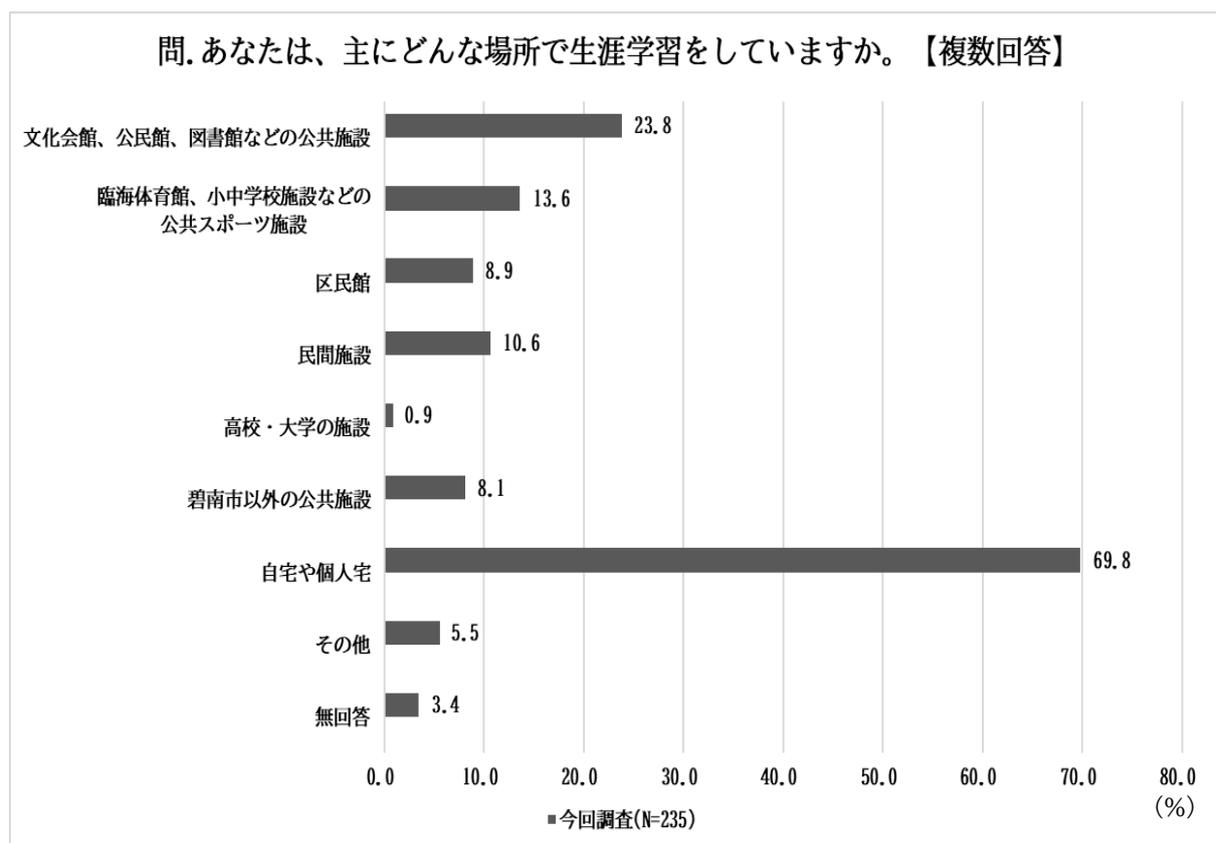
生涯学習の方法をみると、「個人で新聞、雑誌、本、テレビ、ラジオ、インターネットなどから学ぶ」が71.1%と特に高い割合を示しており、「個人で健康づくりに取り組む」が32.3%と、個人で学ぶ方が多い傾向にあります。次いで「グループ・サークル活動などに参加して学ぶ」、「職場内の研修や教育によって学ぶ」が多くなっています。



#### ④ 生涯学習の場所

活動場所については、「自宅や個人宅」が69.8%と飛び抜けて多く、次いで「文化会館、公民館、図書館などの公共施設」や「臨海体育館、小中学校施設などの公共スポーツ施設」など、市内の公共施設が学習拠点として利用されています。

現在は自宅で学習するケースも増えているため、今後は、在宅でもできる学びの環境を整えていくことも重要だといえます。

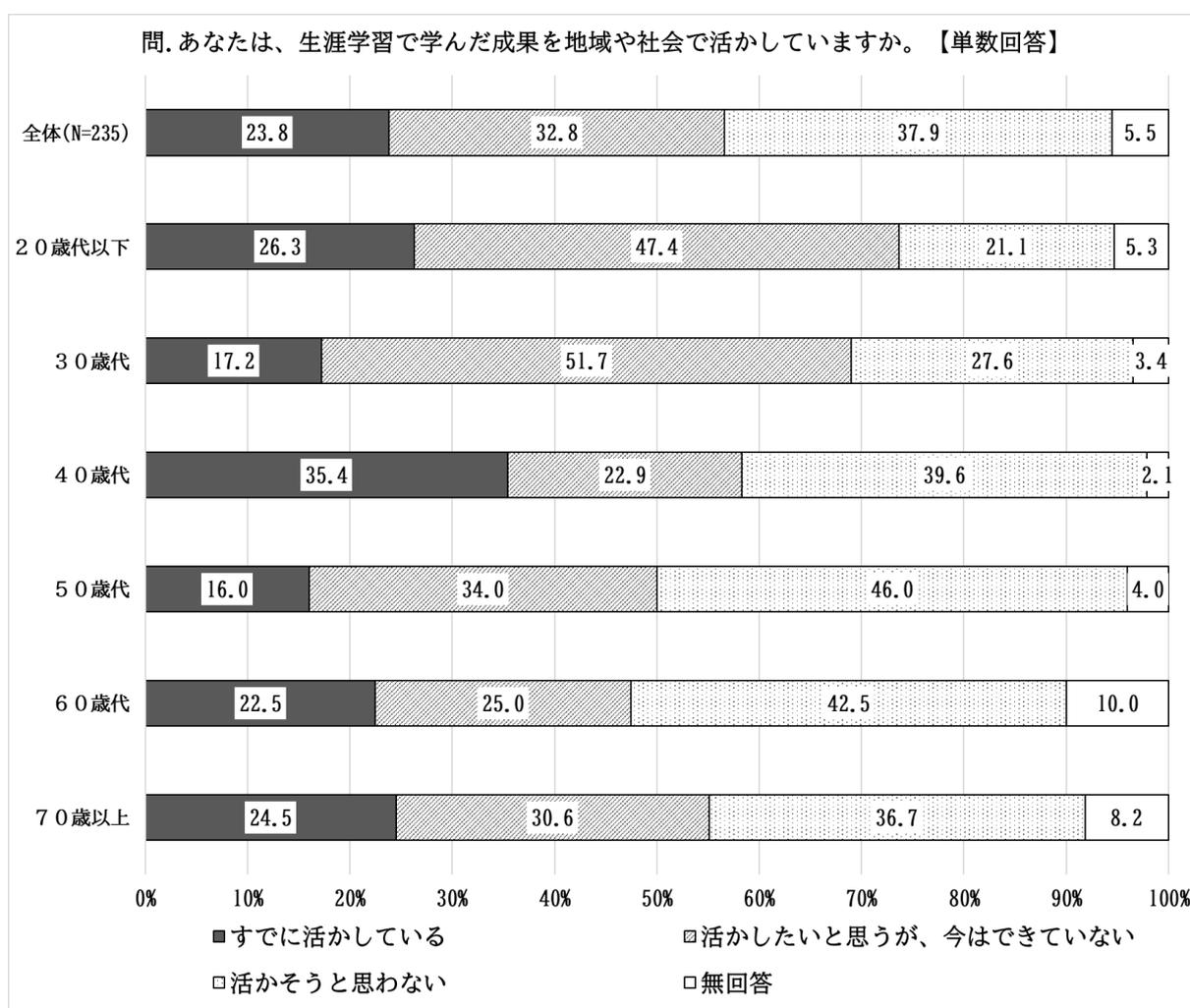


#### (4) 生涯学習の活用状況

##### ① 地域や社会での活用

地域や社会での活用については、全体で23.8%の方が「すでに活かしている」と回答した一方で、「活かしたいと思うが、今はできない」の方が32.8%とあり、思いがあるのに活用されていない方が多い状況です。

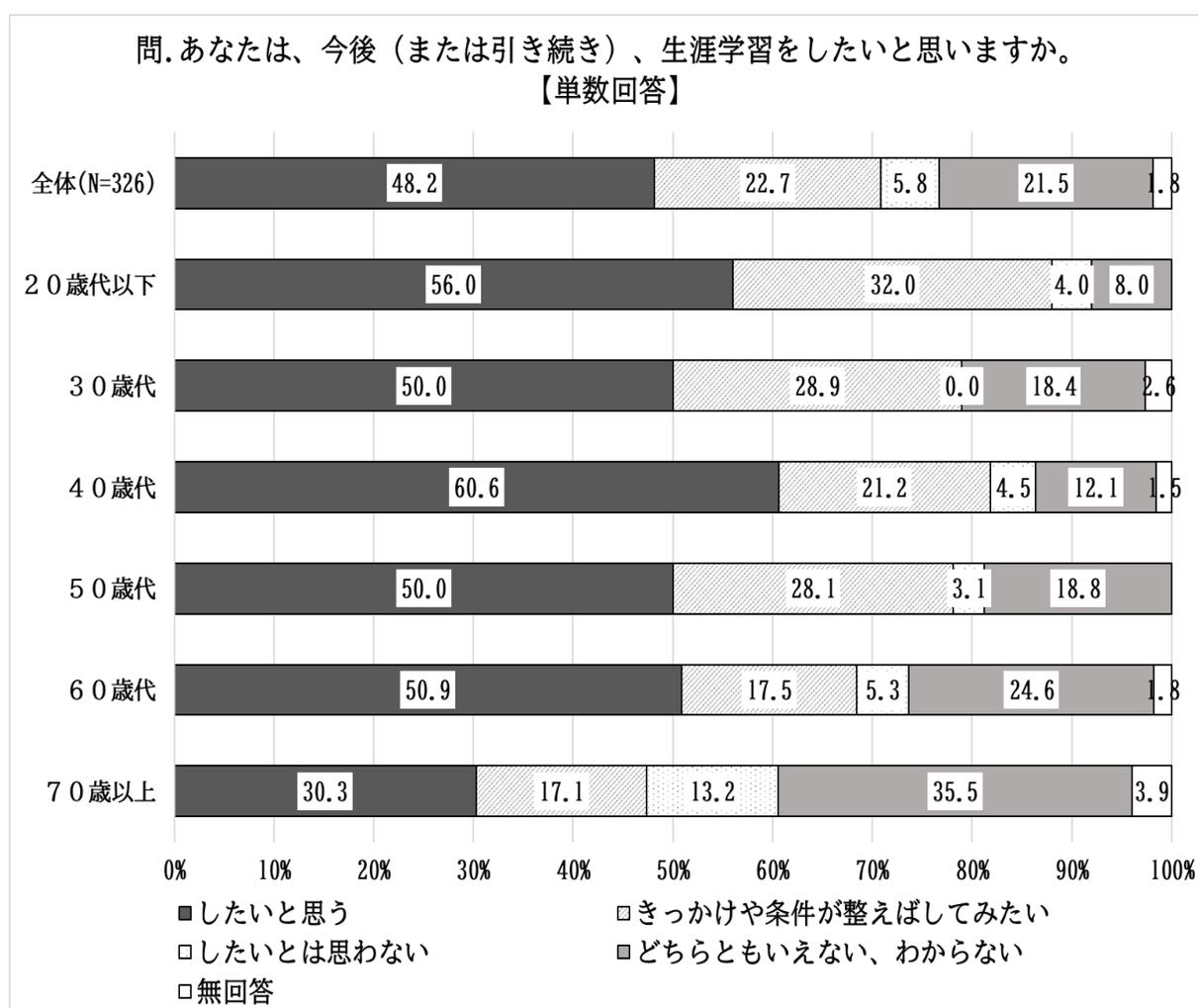
また、年代別では、「すでに活かしている」が40歳代で35.4%と高く、「活かしたいと思うが、今はできない」は30歳代で51.7%、20歳代以下で47.4%と高く、若い方が活かしきれないという傾向が見られました。



## (5) 今後の生涯学習

### ① 今後の学習意向

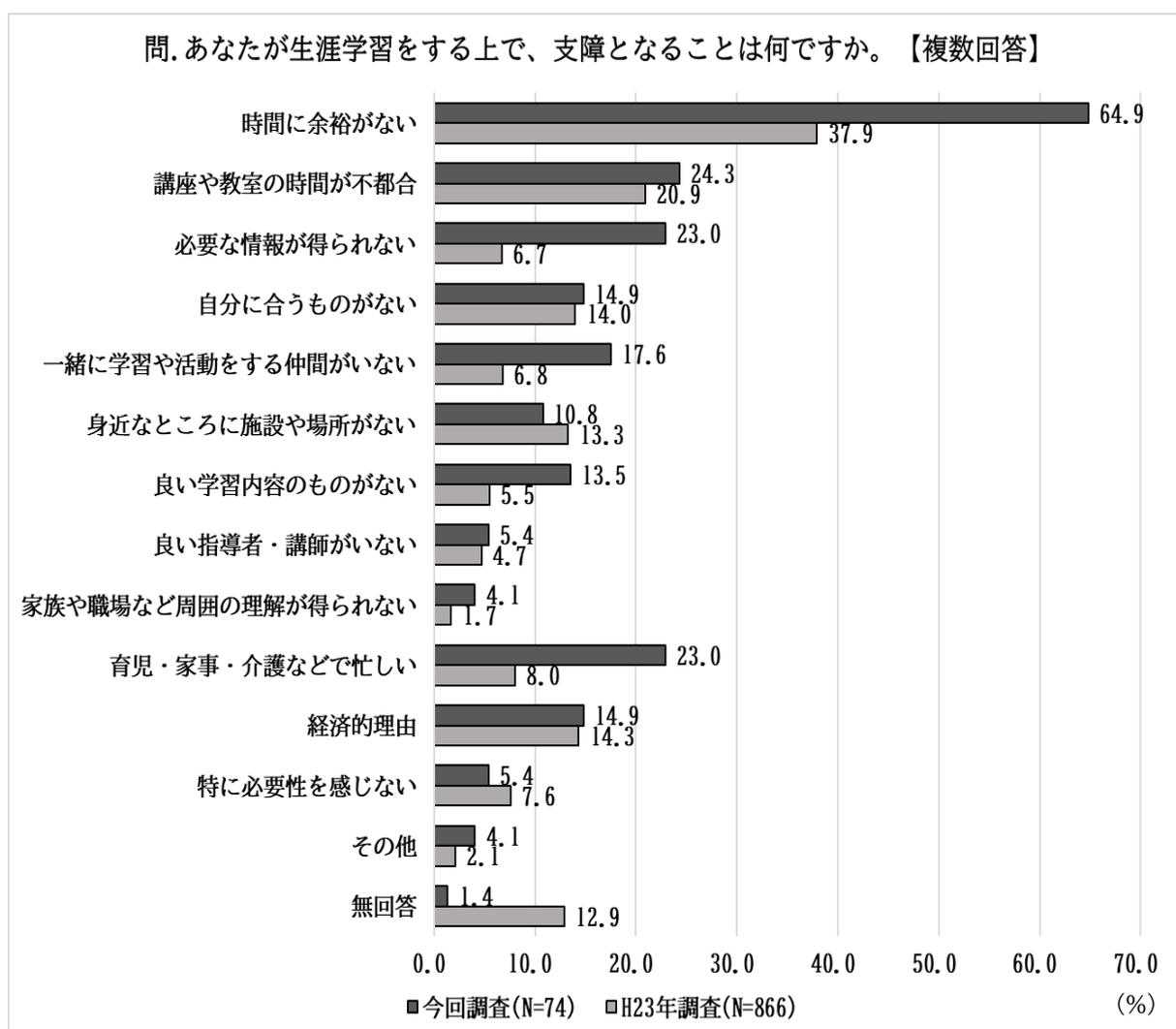
今後の学習意向については、全体で生涯学習を「したいと思う」が48.2%、「きっかけや条件を整えばしてみたい」が22.7%で、7割以上が生涯学習に今後取り組んでいきたいという意向を示しています。また、年代別では、子育て世代や働き盛り世代に学習意欲が高い傾向が見られます。



## ② 生涯学習をする上で支障となること

前質問で子育て世代や働き盛り世代に学習意欲が高い傾向が見られた一方で、生涯学習をする上で支障になることについては、「時間に余裕がない」、「育児・家事・介護などで忙しい」が多い回答がありました。

また、前回調査と比べて、「必要な情報が得られない」、「一緒に学習や活動をする仲間がいない」という回答が多くなっています。

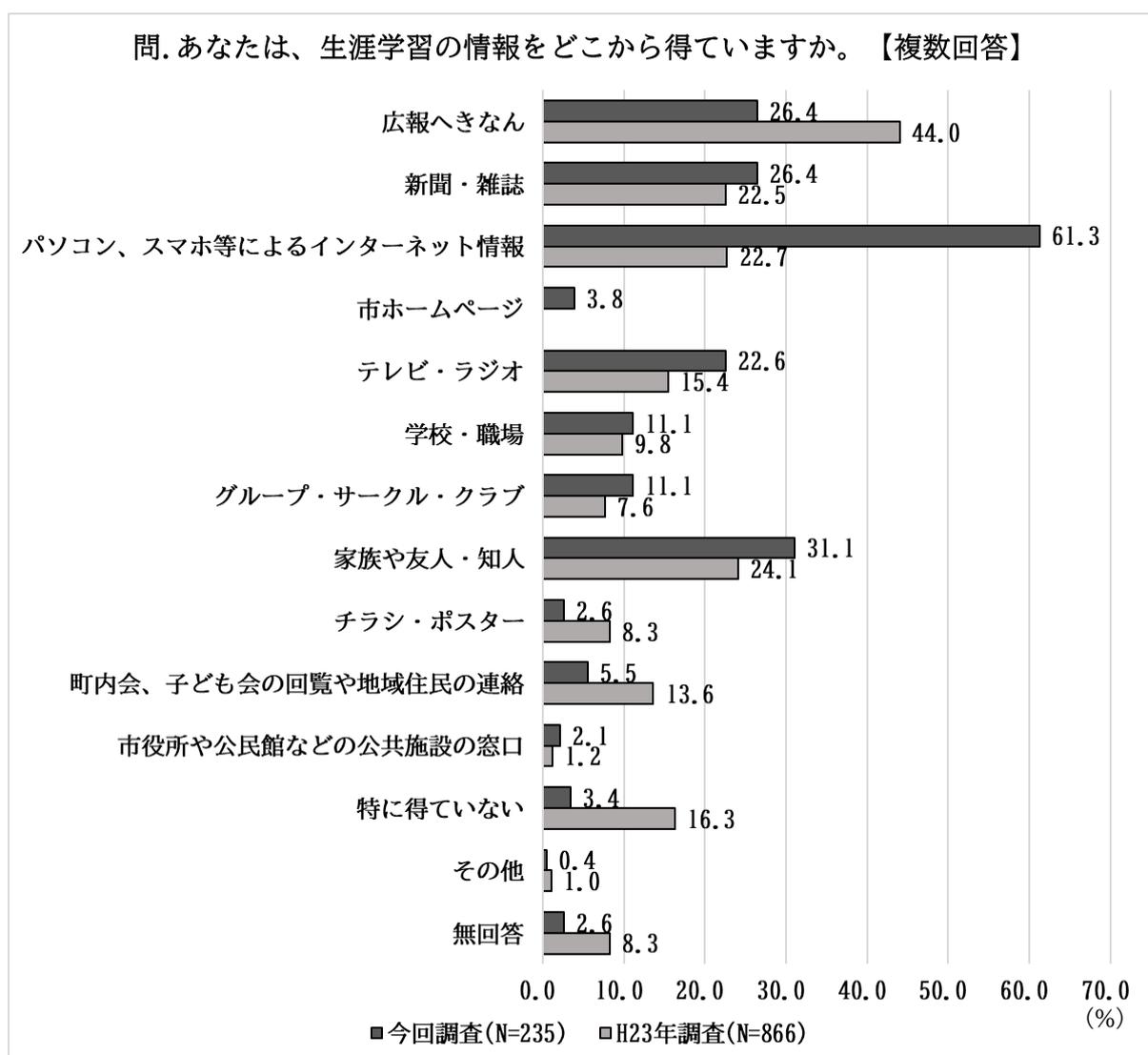


## (6) 本市の生涯学習の情報

### ① 情報収集の手段

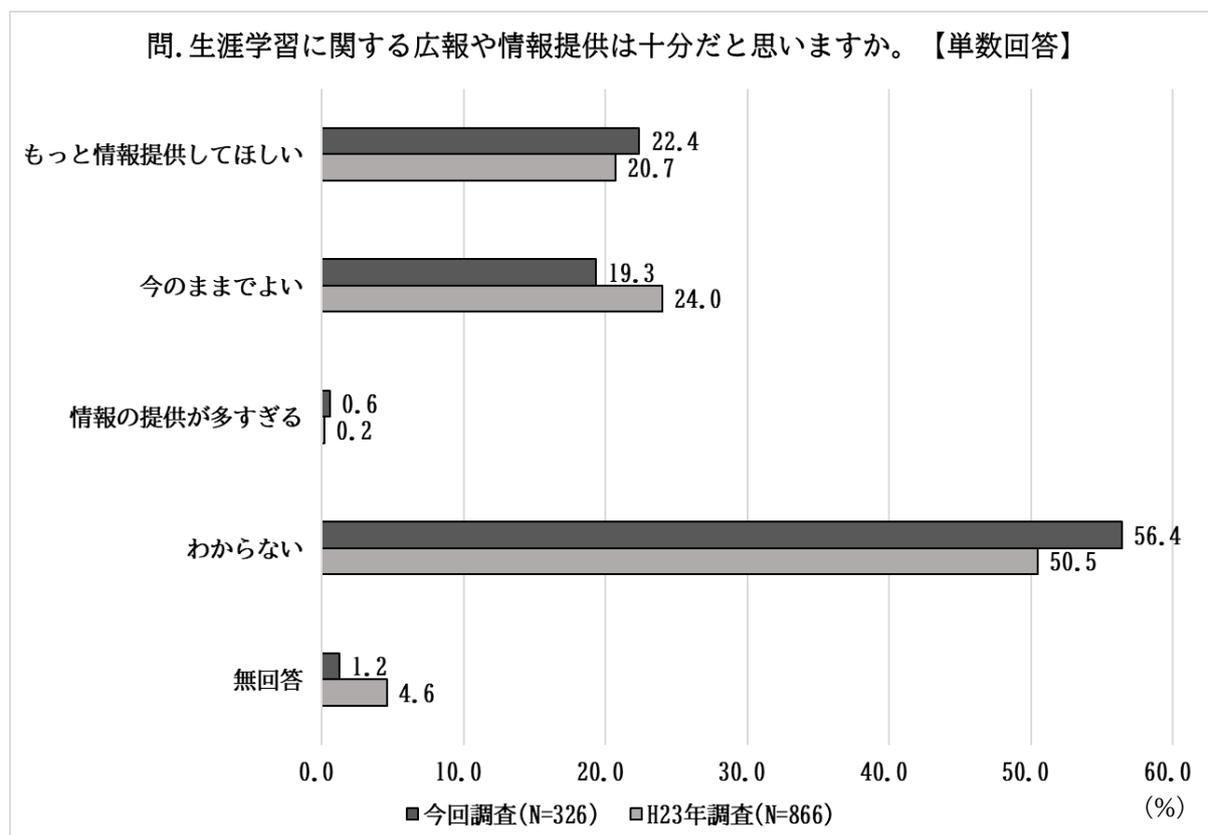
情報収集の手段については、前回調査より「パソコン、スマホ等によるインターネット情報」、「テレビ・ラジオ」が大幅に多くなっています。

一方で「広報へきなん」、「チラシ・ポスター」などの紙面による情報収集は減少してきている傾向が見られました。



## ② 市が行っている情報提供への評価

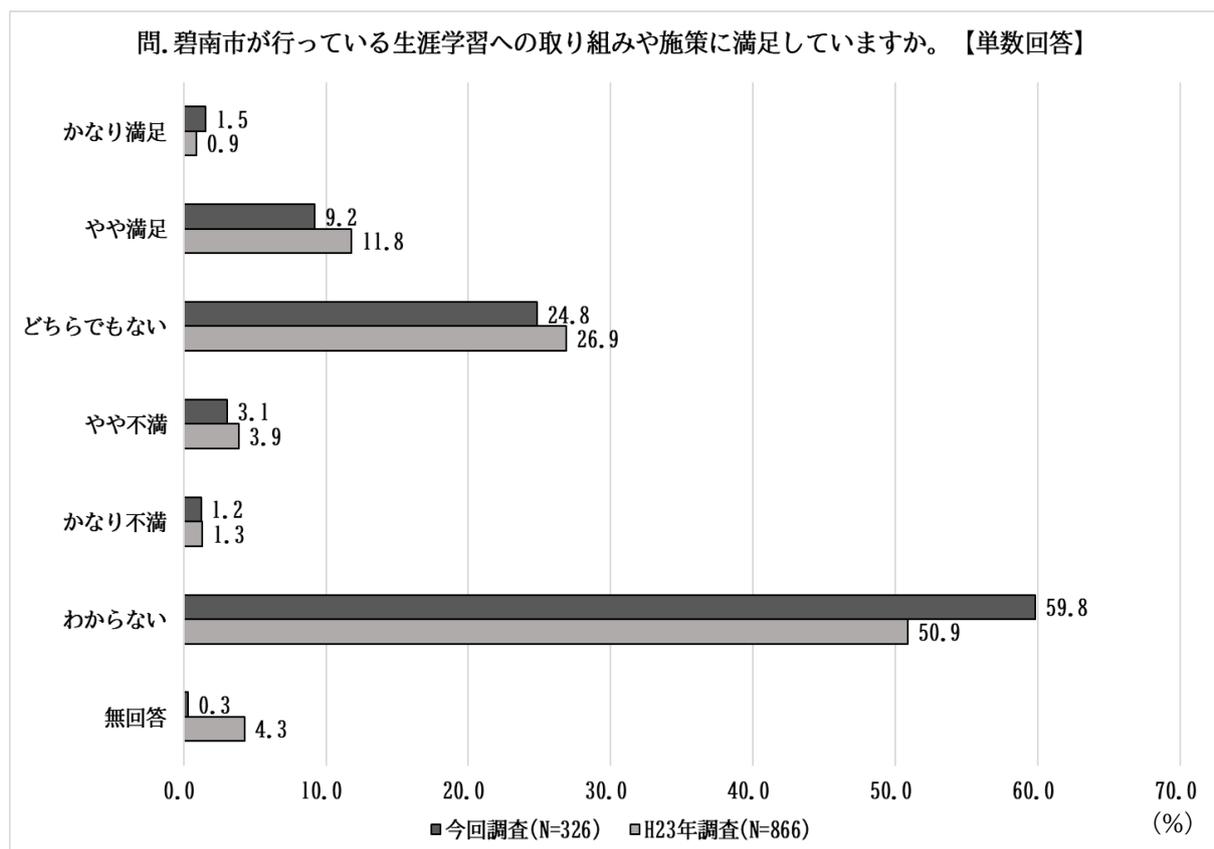
市の情報提供については、前回調査とあまり変化は見られませんでした。回答の多くは「わからない」であり、市の情報提供が住民に届いているのか、また判断することもできない状況にあると考えられます。



## (7) 今後の本市の生涯学習施策

### ① 市の生涯学習施策への満足度

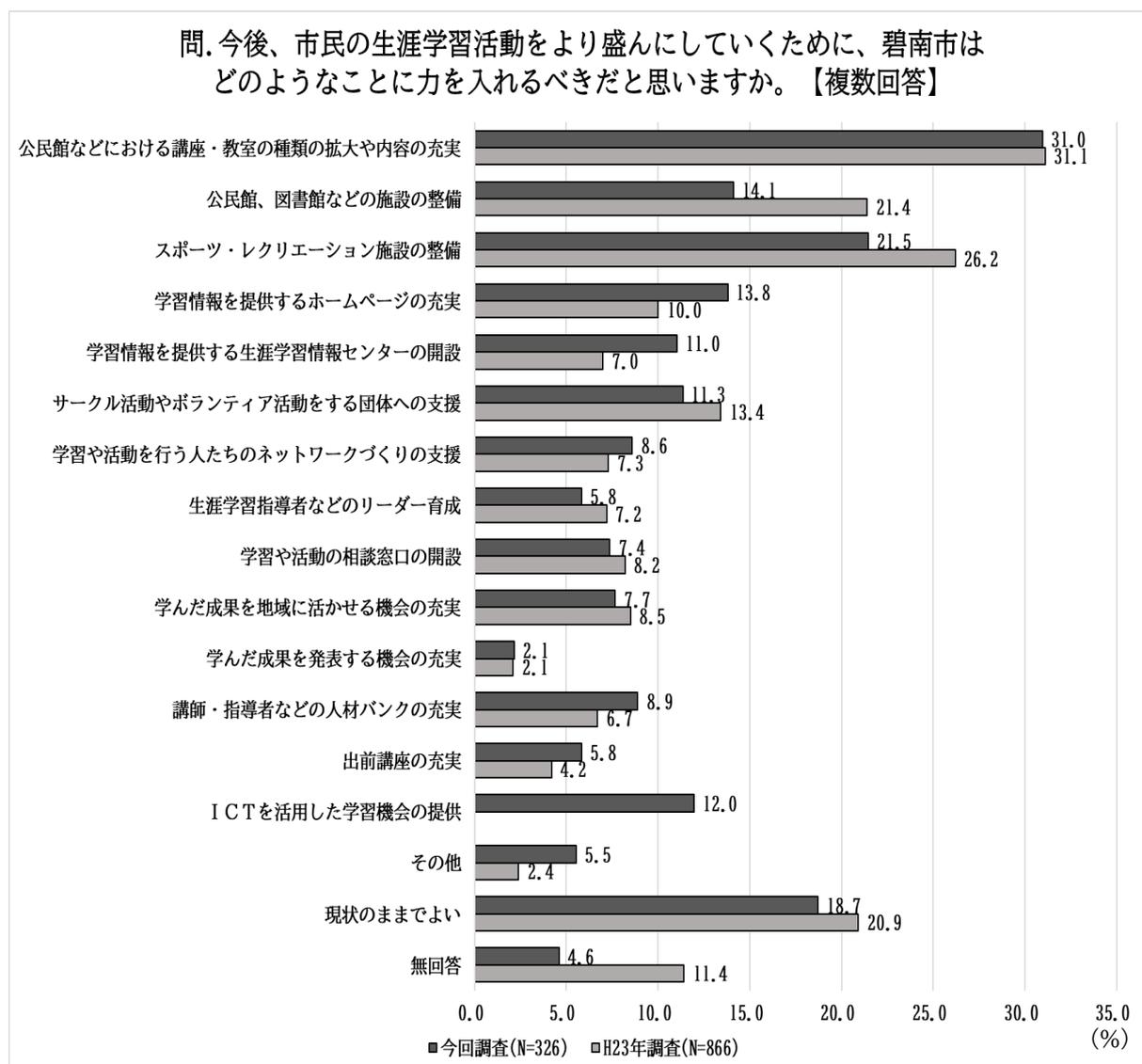
市の生涯学習施策への満足度は、前回調査とあまり変化は見られませんでした。回答の多くは「わからない」であり、市の生涯学習施策について判断することができない状況にあると考えられます。



## ② 今後、市が力を入れるべきこと

市が力を入れるべきことは、「学習情報を提供するホームページの充実」、「学習を提供する生涯学習センターの開設」へのポイントが多くなり、「公民館・図書館などの整備」、「スポーツ・レクリエーション施設の整備」へのポイントが減少し、施設よりも情報を求める声が増えている傾向が見られました。

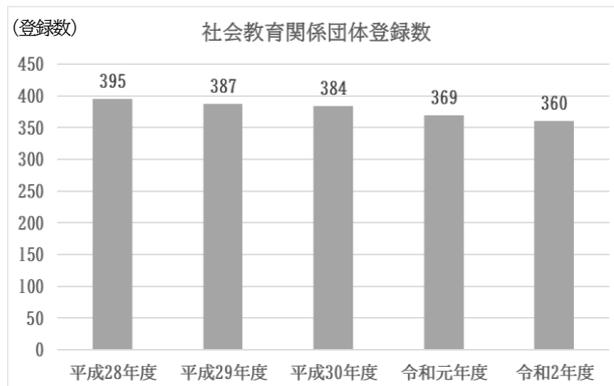
また、今回の調査から加えた項目である「ICTを活用した学習機会の提供」は12%でした。



### 3 碧南市の生涯学習事業の実績

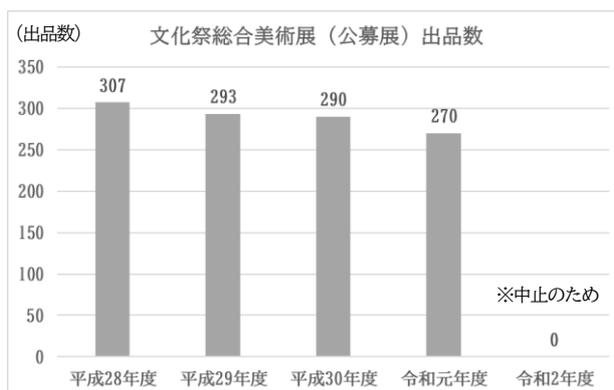
本市の生涯学習事業の実績については下記のとおりでした。

- (1) 碧南市では一定の基準を満たした社会教育関係団体<sup>※</sup>に対し、施設使用料の半額減免や活動PRなどの支援を行っていますが、団体登録数は年々減少しています。

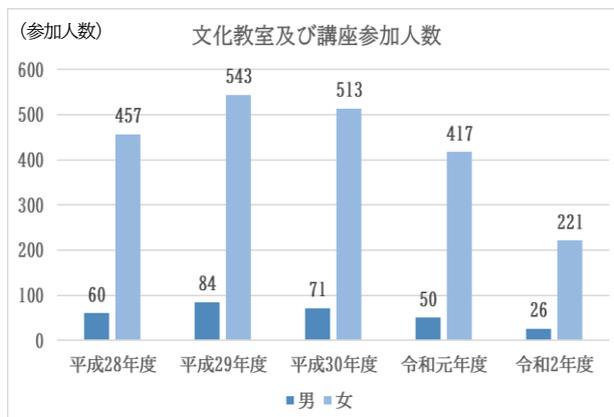


<sup>※</sup>社会教育関係団体：文化芸術活動やスポーツ、レクリエーション活動などの、「社会教育に関する活動」を行うことを主な目的とし、社会教育の発展に寄与している団体。

- (2) 碧南市文化祭では5部門（日本画、洋画、彫塑工芸、書、写真）の公募作品を展示する総合美術展を、文化会館で毎年開催していますが、出品者の高齢化などにより、出品数は減少傾向にあります。



- (3) 文化会館や公民館では、生涯学習に関する各種講座・教室を幅広く実施していますが、参加人数は減少傾向にあります。また、男女別にみた特徴としては、女性の参加率と比較して男性の参加率が圧倒的に低いことがあげられます。



※令和2年度は新型コロナウイルス感染症の影響により、(1)～(3)について数値が大幅に減少しています。

## 4 碧南市の生涯学習の主要課題

アンケート結果などから、本市の生涯学習の主要課題を次のとおりまとめました。

### 主要課題1 多様な学習ニーズやライフステージに合わせた学習提供

子どもから高齢者まで、誰もが生涯にわたって学習する環境づくりが必要です。

しかし、アンケート結果からもわかるように、「時間に余裕がない」、「育児・家事・介護などで忙しい」などの様々な理由によって、現代社会において生涯学習の時間を確保することが難しい状況になっています。

今後は幅広いライフスタイルやライフステージなどの状況に応じて、いつでも、どこでも、必要とする時に学習することができるように、多様化した学習ニーズに対応した学習機会の提供が求められています。

また、ICTを活用するなど、「新しい生活様式」に対応した、多様で柔軟性のある学習機会の充実も必要です。

### 主要課題2 学習成果の地域還元への取り組み

市民一人ひとりが、学習した成果を自分自身のためだけではなく、社会や地域の中で活かすことができる仕組みづくりが重要です。

しかしながら、市民の学習目的としては「個人の楽しみとして」や「健康維持・増進のため」、「家庭生活に役立てるため」などが主流であり、学習成果を社会貢献や地域活動に結びつける生涯学習ニーズは、依然として低い水準にとどまっています。

今後とも、地域の歴史、地域文化及び地域課題などの学習機会の提供や、地域と連携した活動を通して、自身が地域の一員であることを理解し、学習の成果を地域との関わりに繋げる取り組みが必要です。

### 主要課題3 関係機関との交流・連携強化

地域社会のつながりや支えあいの希薄化が進んでおり、地域組織の結びつきが弱くなってきています。また、地域や学校が抱える課題も複雑化及び多様化してきています。

地域での教育力の向上のためにも、行政、家庭、学校、地域、各関係機関などの多様な

主体との協働により、生涯学習を通じた仲間や地域づくりを進めることがさらに求められます。

また、市民に専門性の高い多様な学習機会を提供するため、大学などの高等教育機関や民間事業者、国・県・近隣市などの様々な関係機関との連携強化も図っていく必要があります。

#### 主要課題4 学習を支える新たな人材の発掘・育成

近年、自主的に活動するグループは、指導者や受講者の高齢化などの理由から解散する傾向にあり、本市の社会教育関係団体登録数も年々減少しています。今後は既存グループへの新たな参加者の加入促進や生涯学習を通じた仲間づくりへの支援が必要です。

また、優秀な指導者を発掘し、自ら学んだ学習活動の成果を他の人々に伝える仕組みづくりをしていくことが必要です。指導することは、さらなる学習意欲ややりがいを持つことに繋がります。指導者も受講者もともに学びあう環境づくりが必要です。

#### 主要課題5 生涯学習情報の提供・相談体制の充実

生涯学習に関する講座やイベントは様々な学習拠点にて幅広いテーマで開催されており、情報の把握・集約が難しいことから、生涯学習情報の一元化に努めるとともに、ICTの活用など多様な方法で市民にわかりやすく情報を提供することが必要です。

また、学習活動に意欲のある市民の相談に対し、様々な学習上での課題を解決するための体制づくりも必要です。

#### 主要課題6 生涯学習関連施設の整備と利便性の向上

生涯学習活動の場となる各施設において、経年による老朽化が進んでいます。

今後の施設のあり方を含めて検討しながら計画的な改築や改修を施すことで、利用者の利便性や安全を確保することが必要です。

また、公共施設を効果的に活用するため、施設のネットワーク化などを進め、生涯学習の地域拠点施設としての充実を図る必要があります。